

▲「学校部活動の地域展開」新たなスタートに向けて!と題した基調講演



▲現場の声が交わるパネルディスカッション

1月24日、岩出山文化会館(スコレハウス)で「大崎市学校部活動の地域展開フォーラム」を開催しました。

令和8年度から大崎市立の中学校・義務教育学校では、休日の学校部活動を地域クラブ活動(社会教育活動)として展開していきます。これは、人口減少による学校部活動の縮小を背景に、部活動の本来の目的である生徒の自主性を尊重した取り組みです。事業開始を目前に地域の皆さんに理解を深めてもらうため、フォーラムを開催しました。

当日は、仙台大学副学長の鈴木秀利氏が基調講演を行い、学校部活動の現状を踏ま

えた上で「子どもファースト」の地域展開の必要性を説きました。また、本市と休日部活動の地域展開について連携協定を締結している宮城県古川工業高等学校校長 佐々木隆義氏がモデレーターを務め、「学校部活動の地域展開をどのように進めるか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストには、市立中学校の校長や生徒の代表、地域クラブの指導者を迎え、それぞれの立場から現状や課題、今後の展望について議論を深めました。

市では、今後も生徒が活躍できる環境の整備を進めていきます。

大崎市学校部活動の地域展開フォーラムを開催しました



令和7年度岩出山文化会館自主文化事業「The Opera Revolution—声と響きの新時代—」

問 岩出山文化会館(スコレハウス) ☎72-0357

おおさき宝大使 青木 麻菜美 氏をはじめ、多彩な出演者が集結します。ピアノ・パーカッション・サクソの旋律が織りなす空間で、オペラの新たな魅力を体感しませんか。詳しくは、市ウェブサイトを確認してください。

日時 3月15日(日) 開場13時 開演14時  
※13時15分から「ザ・ミュージアムMATSUSHIMA」によるストリートオルガンの演奏があります。

場所 岩出山文化会館(スコレハウス)

定員 450人(未就学児は入場不可)

料金 一般3,000円、学生2,000円(全席自由)  
※当日券は、500円増しの金額になります。

チケット販売 岩出山文化会館(スコレハウス)窓口(平日10時~17時)で販売  
※電話での予約も受け付けています。



【プロフィール】

おおさき宝大使 青木 麻菜美 氏

古川地域出身、現在はアメリカ合衆国ニューヨークを拠点にソプラノ歌手として活動。平成28年に渡米し、オペラ『魔笛』でデビュー。

その後、各国の劇場で歌声を披露。また、オペラの認知度を高めることを目的に制作・プロデュースした舞台『Opera Is Boring“オペラはつまらない”』は、好評を得た。



春休み!ワークショップまつり

問 大崎市民ギャラリー(緒絶の館) ☎21-1466

さまざまな画材を使ったワークショップが体験できます。春休みに楽しい思い出をつくりませんか。詳しくは、市ウェブサイトを確認してください。

期間 3月23日(月)~29日(日) 10時~17時(受け付けは16時30分まで)

場所 大崎市民ギャラリー(緒絶の館)

内容 「こけしの絵を描こう」、「合羽摺りで作るしおり」、「マスキングテープで模様をつくろう」など

持ち物 汚れてもよい服装

その他 小学校2年生以下は保護者同伴



▲「合羽摺りで作るしおり」に挑戦

関連イベント

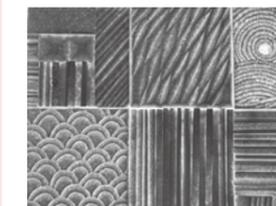
❖色えんぴつでぬり絵しおりを楽しもう  
塗り絵でしおりを作ります。

日時 3月28日(土) 10時~正午  
講師 長瀬 れい子 氏

❖発泡スチロールスタンドグラスをつくろう

発泡スチロールを組み合わせて、色を塗って自分だけのスタンドグラスを作ります。

日時 3月28日(土) 13時~15時  
講師 姉齒 公也 氏  
定員 20人

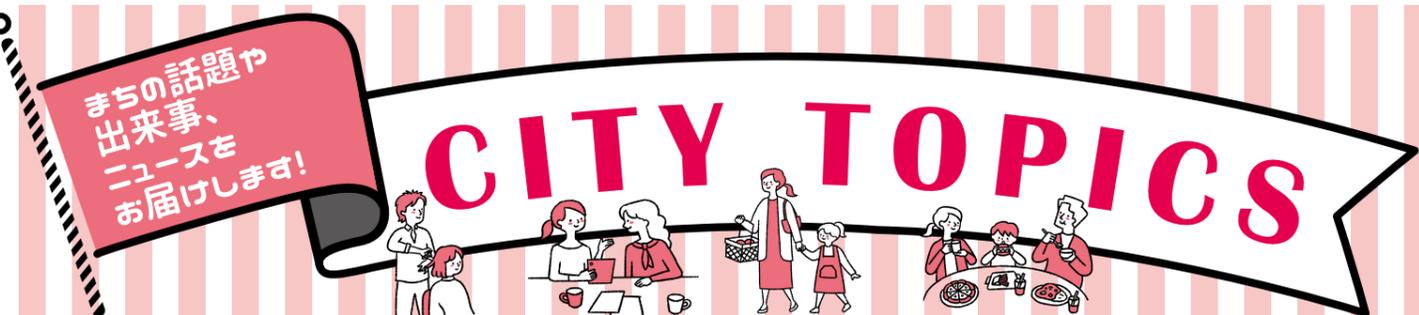


◀発泡スタンドグラス

❖共通事項

場所 大崎市民ギャラリー(緒絶の館)

その他 最終受け付けは各終了時間30分前  
※会場の混雑状況によって待ち時間が発生する場合があります。



多文化共生理解講座を開催しました

1月24日、「多文化共生理解講座」を開催しました。

国が定める「ライフ・イン・ハーモニー推進月間」に合わせて、国籍や文化などが異なる人々が共生する社会へつなげるための講座です。

合い、調和の中で共に生きる地域づくりへと歩みを進めていきます。

講座では、大崎市立おおさき日本語学校のベトナム、インドネシア、台湾出身の留学生が講師を務め、生活習慣や歴史文化、日本とのつながりなどについて説明しました。インドネシア出身の留学生は、「Tak Kernal Makaka Tak Sayang」ということわざを紹介しました。「相手を知らなければ、愛することはできない」という意味で、多文化共生が目指す「互いを知り、尊重し合う社会」と重なり合う言葉として、参加者の心に響きました。



▲交流を通して互いの理解が深まる参加者と留学生



▲留学生の説明に真剣に耳を傾ける参加者